

あけましておめでとうございます。  
午年が始まりました。ラストスパートで駆けぬけます。



### ＜讃岐三白と希少糖＞

江戸時代、讃岐の国では塩・砂糖（和三盆）・木綿が特産で「讃岐三白」と呼ばれていました。その中でも砂糖は幕府に献上される高級品のため、庶民の口にはめったに入らず、せめて正月だけでも甘いものを、ということからあん餅雑煮※が始まったとも言われています。※詳しくは「三木町だより第7号」をご覧ください。

現在、「さぬき新糖」として登録され話題になっているのが「希少糖」です。テレビなどでも取りあげられていますが、ご存知でしょうか。

自然界にわずかしかないという希少糖は、三木町内にある香川大学農学部（希少糖研究センター）で研究され、大量生産技術の開発に成功した「夢の糖」です。抗肥満作用・体脂肪率上昇抑制・動脈硬化抑制などの効果が注目され、食品業界・医療関係などで応用が期待されています。

三木町は希少糖の里として注目されています。旧小蓑小中学校校舎を活用した三木町希少糖生産技術研究所は、希少糖甲子園やバイオ体験学習などのプログラムも行っています。

希少糖を使ったお菓子や、だしなど色々な商品も開発・販売され、ますます注目度アップしそうです。

### 猿だんご

三木町の山中には猿がすんでいて、私も一度、道路を悠々と歩いているところを見かけたことがあります。猿はこちらの人にとって身近な動物です。

猿と言えば、冬恒例の函館市営熱帯植物園の「サル山温泉」が始まっていますね。気持ち良さそうに温泉につかっている猿たちの様子が目に浮かびます。

こちら香川県小豆島の冬の風物詩といえば、銚子溪お猿の国の「猿だんご」です。寒さをしのぐために猿たちはギュッと集まり、かたまって、お互いの体温で体を温めあいます。ニュースでも「今年も大きなだんごがたくさんできました」と紹介され、寒い冬に心をホッと温めてくれます。



（画像提供 小豆島町商工観光課）